

10/26 第7回定例理事会開催

(1)「2017年度上半期のまとめ」の決定及び2017年第1回総代会議招集の件

2017年の総代の選出を受けて、2017年度上半期の事業活動報告及び下半期の取り組みの共有を主たる目的として、第1回総代会議の開催と、論議資料となる「2017年度上半

期のまとめ」を議決しました。
(2)職員退職金支給規則改定の件
今後の社会情勢によって必須となる、多様な正規職員の登用、採用や働き方にふさわしい退職金制度をめざし、勤続、貢献度を単年度ごとに反映できる制度への改定を議決しました。

11/11 「しあわせの経済」世界フォーラム2017 in 東京に参加

グローバル経済により引き起こされる弊害が世界に広がっています。地域を大切に社会を変えようというイベント「しあわせの経済」世界フォーラム2017 in 東京が、11月11、12日に開催され、パルシステム東京理事長や生産者などが参加しました。



広井良典 京大教授・吉原毅 城南信金顧問・山崎亮 東北芸術工科大学教授とともに発言する野々山理恵子理事長(11月11日 二ツ橋ホール)

初日のシンポジウム「グローバルからローカルへ～日本の視点」にパネラーとして登壇した野々山理事長は、パルシステムの実践を紹介。「豚肉を買うときに飼料米で育てた豚肉を選ぶことが、食料自給率の改善につながる

ます。消費者の選択で社会を変えていきましよう」と話しました。
(2日目、分科会の報告は2月号に掲載)

11/14～21 第1回総代会議、開催

2018年6月に開催される「総代会」に向け、3回にわたり開催される「総代会議」。1回目のこの会議が9会場で開催され、2017年度上半期のパルシステム東京の事業と活動の説明と、意見交換を行いました。



「第1回総代会議」での意見をベースに、今後の総代会議で議論を重ねていきます。

「パルシステム東京でも子どもの貧困問題の解決に向けた具体的な取り組みを」など、建設的な意見を交わしました(11月20日 とき産業振興プラザ会場)

2017年度上半期
パルシステム東京の事業と活動



パルシステム東京 専務理事 辻 正一

●パルシステム事業

組合員のみならずの皆さんの利用により、前年度上半期と予算をともに超えることができました。

秋に取り組んだテレビコマーシャルでは、「ほんもの実感！私は選ぶ篇」を放映。消費者の選択が、よりよい社会づくりにつながるという考え方を広げました。また、商品のよさ・パルシステム東京の考えを組合員に伝えるため、産直野菜の安全性を特集したチラシや、ペットボトルの水は扱わない理由を説明したチラシをパルシステム東京独自に作成し、配付しました。



優秀な職員を表彰するマイスター制度は一人ひとりのモチベーション向上に

一方で、配送担当の意識向上をめざし、優良スタッフに「マイスターバッジ」を配付するなどにも取り組みました。

●福祉事業

福祉事業も前年度比・予算比ともに超えた数字で推移しています。

ただ介護事業ではスタッフの確保という課題があります。人手の減少は事業規模の縮小に直結します。今後対策を進めます。一方、保育事業では、「ぼる★キッズ府中」が認証保育所に、さらに4月には認証保育所「ぼる★キッズ足立(仮称)」が開園予定です。今後もパルシステム東京らしい保育を進めていきます。



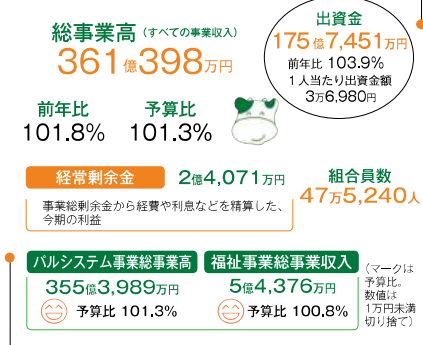
「ぼる★キッズ府中」の保育風景

●組合員活動

よりよい社会を作るための活動が活発に展開されています。「九州北部豪雨緊急支援基金」や「平和カンパ」「ヒバクシャ国際署名」などには、たくさんの組合員の協力がありました。また、食の安全を揺るがす「種子法廃止」に関する学習会にもたくさんの組合員が参加。目標としている、「一人ひとりが学び・行動する」の実践が進められています。

2017年度 上半期報告

2017年4月1日～2017年9月30日



新年を迎え、パルシステム東京の理事長からのメッセージをお届けします

一人ひとりの「選んで買う」で
よりよい未来をともに

パルシステム東京 理事長
野々山 理恵子



●理事長プロフィール
1959年、長野県に生まれる。趣味は旅。パルシステム商品では、人参とホークウインナーが好き。

あけましておめでとうございます。昨年同様、事業・活動ともに、順調に進めることができました。関わりのありましたすべての方にお礼を申しあげます。
ともに歩んだ成果として
昨夏には、「ヒバクシャ国際署名」に全国の生協や多くの市民団体と取り組み、全国で51.5万筆以上の署名を集めました。また組合員の声に応じて「たんばく加水分解物」をハムなどの商品から除いたり、「やっぱり石けん！洗濯用粉石けん」を使いやすく改良するなど、商品の開発・改善も継続して進めました。種子法廃止を受けての学習会を開催するなど、一人ひとりの学びの機会も多く作りしました。
組合員全体で「選んで買う」を言葉に、さまざまな活動も行いました。

私たちは何かを買うときに、複数の商品から選択をします。その「選んで買う」をちょっとだけ意識して積み重ねることで、少しでも社会をよりよい方向へ変えていけたらという活動です。
たとえば、「恩納もすく」を選べば豊かな海の再生に協力できます。これは、もすくのすみかのサンゴを増やすため、もすく代金の一部がサンゴの植え付け活動にあてられるというしくみにより、他団体にも広がり、これまでに植え付けられたサンゴは約3万本になりました。
遺伝子組換えではない菜種の油やフェアトレードのパナナ、農薬に頼らずに栽培された農作物などを選ぶことで、作る人たちの意識や暮らしも変わっていきます。再生可能エネルギーを中心とした「パルシステムでんき」を選ぶことも、脱原発社会の実現につながっていきます。
楽しく、ほんものを選ぼう
カタログには「これを選ぼう」と思える情報が詰まっています。そこから少し学んで、仲間といっしょに楽しく、ほんものを選ぶ。そういう組合員の「選択の連鎖」で社会を変えることを目標に、みなさんと力を合わせていきたいと考えています。
よりよい社会をめざし、本年もよろしくお願いたします。

産直野菜の畑に並んだ太陽光パネル
農作物の産地が発電の産地にも



「原発事故後、千葉でも放射能対策に取り組まれました」と話し、佐原農産物供給センターの番取氏

サンゴ礁の再生への取り組みは
海外からも多くの関心を集めている



パルシステムは沖縄県恩納村とパートナーシップ協定を締結。ともに海を育てる活動を推進

ヒバクシャ国際署名がNGO「ICAN」の
ノーベル平和賞受賞につながった



核兵器のない世界の実現をめざす、この署名。取り組み前には被爆三世・林田光弘さんの学習会を開催